

『清末小説研究ガイド 2005』作成履歴

本稿は、『清末小説研究ガイド 2005』（清末小説研究会 2004.11.1 清末小説研究資料叢書 8）に収録した「附録 本ガイド作成履歴」である。改訂版には収録しないので清末小説研究会ホームページに掲げる。（2008.2.20 記）

以下において、本ガイドができるまでの経過を記録しておく。樽本個人が把握している事実にもとづいている。ほかの人には別の理解があるかもしれない。ガイドというこの種の文献は、私にとっては、思い立ってすぐにできあがるというものではない。作成経過を見てもらえれば、絶え間なく資料を収集しながら記録していることが理解できるだろう。一部、仮名にした。

1985.12.1

本ガイドは、さかのぼれば中国文芸研究会・啞之会共編発行『中国近現代文学研究ガイド これでもキミも論文が書ける！?』第1版（1985.12.1）所収の「第2部清末文学」にたどりつく。該書の編集目的は、第2

次資料である研究文献を探すための文献案内であった。清末小説関係では、149件の文献を収録している。

1987.12.17

『中国近現代文学研究ガイド』は完売した。在庫がなくなったのを機に、清末部分のみを補充し「清末小説研究ガイド」と題し『清末小説』第10号（1987.12.1）に掲載する。216件の文献を収録。寛文生氏よりハガキ（1987.12.16付）で文学史の掲載漏れをご指摘いただいた。いい機会だから、私の手元にある文学史で関係するものは、すべて収録した。

1990.10.28

『中国20世紀文学研究ガイド』（仮題）と題してまったく新しく編集することを中国文芸研究会の編集部に提案する。当時、該研究会で編集を進めていた『図説・中国20世紀文学』があった。10年区切りで各年代を概括し、作家個人を中心として漢語原文、注釈、伝記、研究資料を示す。この資料部分を基礎にし、作家名から研究文献が検索できるように工夫をするという計画だ。しかし、のち、『図

説・中国20世紀文学』そのものの編集作業が頓挫し、ガイドも放置されることになる。

『図説・中国20世紀文学』について説明すれば、もともと中国文芸研究会の自主刊行物として企画された。ところが、編集担当者O H氏は、関係者に相談することなく出版社を勝手にさがしてきた。事後承諾のかたちで他社の出版物に変更したわけだ。そればかりか、途中で編集担当の仕事を放棄してしまい雲隠れした（『中国文芸研究会会報』にO H氏の文章がある）。1991年より該書編集には、私は参加していない。

1993.7.27

S N氏より『中国近現代文学研究ガイド』第2版の編集提案があった。清末小説以外の構成を考えるもので、見本として事典類、叢書類の書名が掲げられた書目が提出される。

1994.1.17

清末小説を含んだ全体の構成を考え『中国近現代文学研究ガイド』第2版の編集方針をあらたに提出する。この段階では、前出の『中国20世紀文学研究ガイド』（仮題）と区別をつけていない。流動的だった。

以前の編集方針との相違点は、ふたつある。事典、文学史、研究叢書、作品叢書を前面に押しだし、概略を知ることができるようにするのがひとつ。ふたつ目は、作家名でひくことのできる索引を作成することだ。

『中国近現代文学研究ガイド』第1版を見た大学生が、これでは論文は書けないといったそうだ。ガイドには論文の課題などが掲げ

られていて、これを読めば論文がすぐに書ける、と誤解したらしい。

そのような便利本が、この世の中にあるとは思えない。だいいち、書物のかたちでガイドに紹介されている文献は、すでにその時点で既知のものになっている。そこから新しい発見ができると思うことが間違っている。論文についてなにも理解していないことが明白である。

研究ガイド第1版は、第1次資料に到達するための第2次資料を紹介する指南書であることをその学生は理解しなかった。問題そのものは、学生自身がみつけるというのが大前提なのだ。

しかし、社会一般の受け取りかたは違うのだろう。すぐに役立つものが要求されている。自力で調査するように要求すること自体が、すでに過去のものになっているというのだろうか。より便利な道具として機能させるために、作家名索引を作成することにした。

1994.7.14

中国文芸研究会編『中国20世紀文学研究ガイド』の編集方針を相談のうえ再確認する。書名をこちらにしたのは、『図説・中国20世紀文学』の編集が放置されていたとはいえ、これに引きずられたのである。

現代、当代、台湾、少数民族関係などは、専門家に編集を依頼することにして作業を分担した。

私は、清末部分を整理しはじめ、同時に個人電腦への入力を行なう。全体をまとめて整

理し版下を作成するためである。

そのころ私が個人電腦に入力した清末小説関係のデータは、「A基礎の部」の「1事典類」と「2文学史」「B詳細の部」の「3研究叢書」「3-1個人研究」および「4作品叢書」の「4-1個人作品集」「4-2叢書」であった。同時に「8-1作家名索引」も作成する（本ガイドと整理番号が異なっているのは、のちに編成を変更したためである）。

1994.7.21

『図説・中国20世紀文学』は、いったん発行を断念したように見えた。しかし、SN氏が編集責任者になり、あらためて出版をめざして編集を継続するという。私は、当事者ではないから、風のたよりに聞くだけで。

SN氏より、『図説・中国20世紀文学』の資料ガイド部分に清末小説関係の文献を収録したいという申し入れがある。電腦に入力していた清末小説部分から抜粋してかなり量の文献を提供した（8.5付、10.16付で追加をする。1990年より、中国文芸研究会では電腦通信を利用して。樽本の自宅に機器を導入して事務連絡と原稿のやりとりに活用する）。ただし、資料ガイドのデータとしては、あまりお役には立たなかったようだ（採用が少なかったことの遠回しな表現）。全体のバランスを考えて、清末部分のみが突出して詳細であることを避けるためだと説明があった。うーん。『図説』は、最終的には日本・白帝社より1995年3月20日付で発行された。

1995

『中国20世紀文学研究ガイド』について聞いてみる。清末小説部分以外の作業はいっこうに進んでいないという。関係者に催促をしたが返事がない。全体の編集作業は放置された。

1995夏

私は、病気のため入院することになった。『中国20世紀文学研究ガイド』の編集からも、私は手を引かざるをえなくなる。原稿ができあがれば、それを私が個人電腦に入力して整理をする手順であった。また、版下も私が作成する予定だった。すべて奉仕活動である。それができなくなったということだ。

1996.5.2

『中国近現代文学研究ガイド』第1版の発行からすでに10年以上が経過している。新資料も出ており、研究ガイドの編集再開が可能かどうかを検討してみる。『中国20世紀文学研究ガイド』の編集は、清末小説部分を除いて、まったく進行しなくなっているという。できるあてのないものを待つのはムダである。私の担当部分だけの編集作業を独自に継続することにする。

1996.5.9

『中国20世紀文学研究ガイド』編集担当のSN氏と次のように相談した。整理のすんでいる部分を生かし、ヒナ型として清末小説部分を先に発表する。発表された後、これを参照しながら別に現代、当代部分を検討する。

1996.5.10

清末小説研究ガイドとして、先行発表する

ための媒体を考える。大阪経済大学学会が発行している『どんなんかな？「学問」』（年1回発行）が、学生に専門研究の楽しさを教える入門書となっているので都合がいい。ただし、原稿字数に制限があって6頁だ。私の予想では、計算してみると30-40頁になる。編集担当者に相談する。学会の評議会で検討した結果、長くなってもよいという回答がある。原稿締め切りは1997年1月末日、発行は4月1日を予定しているという。

1996.5

整理入力していた清末小説部分について、新しい編集方針をさらに細かく定める。主として「7その他の重要資料」の細目を決定した。研究雑誌など一部の配列に変更を加える。題名を「清末小説研究ガイド97」とする。以前、発行を計画していた『中国20世紀文学研究ガイド』から、清末小説部分を独立させたかたちになる。「97」と銘打ったのは、1997年発表を目指したからだ。文献資料を引っ張り出し、ただちに編集入力作業を再開する。約550件の文献数となる。入力作業と並行して、「論文を書くために」「凡例」「各項目の説明文」「履歴」を書き始める。

1996.5.16

S N氏と相談する。大経大の出版物が翌年4月1日発表予定というのだったら、あまりにも先の話となってしまう。時間がかかりすぎる。清末小説部分の作業進行状況をにらみながら、並行して現代、当代部分の作業に取りかかりたい。そのために必要なガイド全体

の枠組みを決定するのに樽本が協力する。具体的には、「清末小説研究ガイド」の構成を提示することだ。最大の問題は、作品叢書に収録されたものを作家名で検索できるよう索引を作成することだと意見の一致をみる。清末小説関係の索引は、樽本が入力する。しかし、現代、当代は、誰がどのように入力するのか、この段階では未決定である。最終のまとめは、別に相談することにした。

1996.5.20

作家名索引と文献名索引を試作する。「清末小説研究ガイド97」は、まえがき、本文、索引全体でB5判90頁になりそうだ。試作した索引2種類を、電腦通信網に掲げてS N氏の参考に供する。

1996.6.3

文献数602件で全体の試し刷りをする。

1996.6.5

誤り数箇所を訂正し、ページプリンタで印刷する。ヒナ型にあわせて整形すると68頁となった。一応、これを原稿として大阪経済大学学会に提出するつもり。

1996.6.13

大阪経済大学の紀要に掲載する清末小説部分のガイドは、遅くとも来年3月には発行されるだろうとS N氏に伝える。ついでに、現代関係の作業の進捗状況を聞く。以下は、その内容。

夏休み前に編集方針、作業分担を集まって相談する予定。来年3月末を作業終了のメドとする。ワープロを使用しコマ区切りでデ

ータを作成するという。(45字削除)私の考えでは、コンマ区切りで大量のデータを作成することは、不可能だということができる。漢字ばかりではなく、書名などのピンインはabcで入力する必要がある。大文字か小文字で統一することも必要だ。考えるより実際は複雑なのである。(以下14行削除)

1996.6.20

清末小説ガイドは、印刷してみると頁数が多すぎる。大経学会評議員に相談する。評議会で検討してみるとの返事。「まえがき」約10頁を改題して『どんなんかな?「学問」』に掲載し、文献解題すなわちガイド部分は、『清末小説』に掲載するもひとつの方法だと考える。版下を作らなければならないが、ガイド部分は『大阪経大教養部紀要』になじまないというのだからしかたがない。

1996.7.5

「清末小説研究ガイド97」の「まえがき」部分は、『どんなんかな?「学問」』へ提出することにする。本文は、『清末小説』に掲載しようかとも考えたが、外字の問題もあり(注:当時はMS-DOS版で、外字は1字ずつ作成する必要があった)、なにより分量が多い。『大阪経大教養部紀要』に資料として投稿することを考える。

1996.9.24

「清末小説研究ガイド97」を2分し「まえがき」は「序説」と改題して『どんなんかな?「学問」』に、本文は資料篇として『大阪経大教養部紀要』に投稿する。

1996.12.31

「清末小説研究ガイド97 資料篇」『大阪経済大学教養部紀要』第14号発行。実際の発行は1997年2月17日前後である。

1997.1.1

清末小説研究会のホームページに「清末小説研究ガイド97」を掲げる。印刷物としてはまだ出版されていない。インターネットは、印刷物を目にするのでできない人のために便利なのだ。諸外国の研究者にとっては、特にそうではないか。ただし、読むためには日本語フォントが必要である。

1997.3.10付消印

松浦恆雄氏よりガイド別刷りをもらったとハガキがくる。人物の伝記、翻訳作品、社会背景を知るための項目を独立させてはどうか、という提案もそえられている。考えると答える。可能かどうか思案する。

1997.4.13付手紙

野間信幸氏より手紙がくる。「当時の社会風俗を探るという目的で」「ビジュアルな書籍を、一項目として独立させて」はどうかという提案だ。手持ちの資料にどういうものがあるのかしばらく考え、提案を受け入れることにした。

1997.4.18

「7-7視覚資料(地図、絵図、写真集)」を独立させる。以後、資料追加の作業をつづける。

2003.2.17

新しい資料、研究書が発行されるたびに、

ガイドのデータ・ベースにデータを追加する作業を継続している。

「清末小説研究ガイド97」の公表よりだいぶ時間が経過した。全体を見直して、解説のない部分を一部埋める。さらに、とりこぼしを補充する。松浦氏からの提案のなかに、人物に関する伝記を項目として独立させるというのがあった(1997.3)。長く考えていた。その方が便利ならば、と独立させることにする。

2003.3

データの整理をつづける。その所在が不明であった本「ガイド作成履歴」のファイルが、ふるいノート電腦のなかに眠っていたのを見つけた。あらためて内容を整理し、さしさわりのないよう一部を削除し、字句をすこしつけくわえた。文献の収録数は、3月8日現在で934件になっている。

2003.4

「清末小説研究資料叢書」の1冊として編集刊行することにした。「2005」と銘打つが、発行は2004年中を目標とする。

2004.7

『清末小説』第27号の版下を印刷所に送付した。時間の余裕ができたので、ガイド全体を整理しなおす。収録件数は約1,000である。重複させている書籍もあるから正確には1,000種とはならないが、きりがいいのでこれを印刷することにする。